

ここから始まる

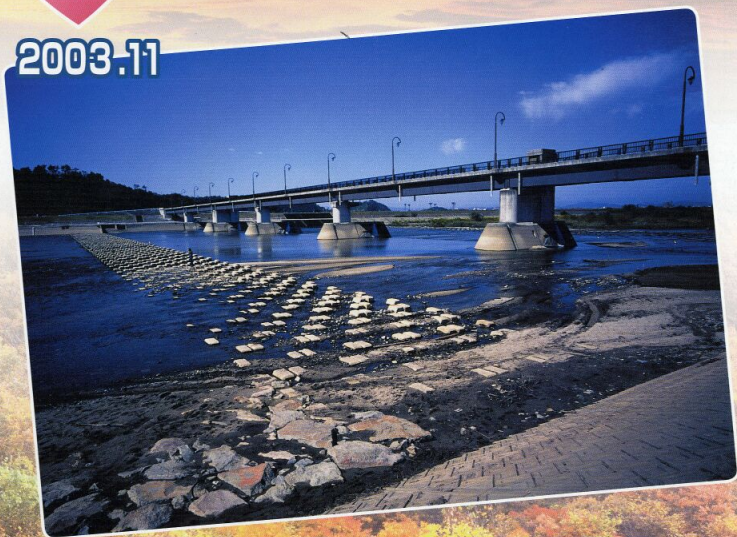
COMMUNICATION MAGAZINE.

GET HEART

No. 24

ゲットハート

2003.11



特集

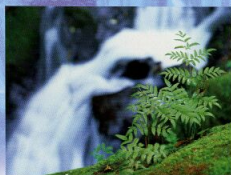
川を中心とした地域の活性化を目指して
法勝寺川の源流を探る

法勝寺川の源流を探る ～川を中心とした地域の活性化をめざして～

今日ほど自然環境の重要性が問われているときはないでしょう。

去る7月26日(土)に法勝寺川の源流探査が行われました。このイベントを計画された西伯町の建設水道課長 藤原さんにお話をうかがいました。

見渡せば私たちの地域にはまだまだ自然がいっぱいです。遠くにも目をやれば、みどり多き山々。そしてそこには永年にわたって森が創られ多くの木々がうっそうと茂っている。その中で小鳥たちは、楽しくさえずりを競い合っています。



足元に目をやれば私たちとその祖先が植えて、育て、守ってきた木々が蓄えた百年の地下水が、小川となり法勝寺川となり、一日も休まず私たちに今日も潤いを与えてくれています。毎日当たりまえのように使っている水、当たりまえのように吸っている空気。それらがもし、当たりまえでなくなったら……。"物を大切に、自然の恵みをありがたいと思う心をもっともっと感じてもらいたい、未来に受け継ぎたい" そんな思いから地元大木屋地区の方の協力を得て、西伯町役場、樹言塾(林業研究グループ)、日野川河川事務所を中心に法勝寺川流域の米子市尚徳地区の小学生とその保護者などが参加して行われました。





思いを込めて建てる源流の碑

総勢約 70 名にてさあ出発。国道 180 号 西伯町大木屋 五輪峠手前 200m から川沿いに山道を歩くこと約 30 分、ようやくたどり着いた場所は大自然の真ん中に位置しています。杉の木がおい茂る山中を歩きながら新鮮な空気を胸いっぱい吸い込み子ども達は元気いっぱいでした。到着後、日野川下流から拾ってきた石に全員が各々の思いを書き込み、それを基礎として使い「法勝寺川源流の碑」を建てました。源流の水はとておいしく参加者ののどを潤しました。

現地へ行くには国道に入口の看板が立っているだけでなく、何気なく通り過ぎてしまうような場所ですが一度訪ねて大自然と向き合ってみるのもいいかもしれません。

「下流域の人たちにも是非、地元の川をもっと知ってほしい。源流を訪ねながら自然とふれあって自然の恵みを感じ、ありがたさや大切さに思いを寄せる。そんな人たちが少しずつでも増えてほしい。日常生活の中では感じないことをあらためて感じてほしい。」と藤原さんは言う。

小さな湧き水が集まり小川になり川となって流れている。その水が作物を育て私たちの生活を潤している。地元の小さな試みが大きな自然環境への関心とつながっていくことで私たちの未来が守られるのではないだろうか。



杉の木がおい茂る中を歩くこと 30 分



みんなで作った源流の碑と一緒に「ハイ、ポーズ」

法勝寺川源流についてのお問い合わせ先
西伯町役場 建設水道課
(0859 - 66 - 3111)

川に親しむ

手押し漁の達人

あいだ いずみ

藍田 泉さん（西伯郡岸本町）

社会福祉法人 岸本町社会福祉協議会 会長

藍田さんは、なんと「手づかみ」で鮎を捕まえるという、鮎捕りの達人です。

日野川では初夏から秋にかけて、鮎釣りを楽しむ方を多数見かけますが、私たちが普段目にするのは、「おとり鮎」という生きた鮎をつけて釣り竿で釣る「友釣り」というスタイルがほとんど。ところが藍田さんは、半そでシャツにゴム製のズボン、そして草履という姿で、道具といえば魚を入れるために腰につけている「びく」くらい。まさに「素手」で鮎を捕まえるのです。

藍田さんが鮎に出るのは、日がすっかり落ちた夜9時ごろ。あたりが真暗になった中で、流れの速い日野川に慎重に入っていきます。川の中ほどになると、水面に顔があたりそうになるまでかがんで水の中に手を伸ばし、ゆらゆらと手探りをしていきます。すると次第に両手に鮎が当たる感触が、その瞬間、ここそとばかりに鮎をパッとつかむと、腰につけた「びく」の中に素早く入れていきます。

一回の漁は約40分程度。この間に40～60匹が捕れるそうです。ちなみに友釣りの場合は1日で10匹程度の釣果が普通です。藍田さんはこんな調子で昨年はなんと年間980匹もの鮎を手づかみで捕らえているのだそうです。



親子2人でとったあゆ



藍田 泉さん

藍田さんは今年で72歳。「手押し漁」をはじめたのは10歳のころで、父親に連れられてはじめてのがきっかけでした。以来60年もの間、毎年夏になると日野川での漁を楽しんでいます。

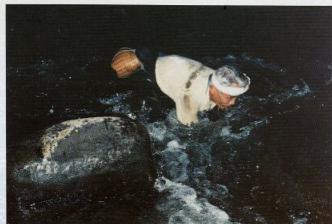
手押し漁の魅力は「一番は、お金がかからないこと」だと笑う藍田さん。自然の中で川と一体となって、鮎と対話しながらのように捕らえていくのが楽しいのだそうです。川に入ればどこに鮎がいるのか、だいたいわかるのだとか。

しかしこの漁法は、最近ではほとんど見られなくなりました。藍田さんはこの漁法を二人のお子さんに伝授されているそうです。さらに、この伝統漁法を地域に伝えていこうと、岸本町が中学生を対象に実施する週末活動としてこの夏から「手押し漁」を体験する「鮎の手押し塾」をスタートしました。岸本町内の12人の中学生たちが参加しています。

今年はいいこの天候で、実際に漁を体験する機会が少なかったとか。しかし参加した子ども達は、初めて自然にふれ合うことに大きな喜びを感じているそうです。

「最初はなかなか出来ないものですよ。川に入って、鮎が手に当たったというだけで上出来です。生きた鮎をはじめて見た、という子どもさんもありましたね」と、その時の様子を藍田さんは笑顔で語ります。

日野川ではここ数年、鮎の姿が減っています。しかし藍田さんは「日野川はあまり昔と変わっていないですよ。このあたりでは一番自然に近い川なんじゃないでしょうか」といいます。そして「もっとたくさんの人に川に入ってほしいですね。ぜひ親子で体験してほしい。日野川の魅力を子ども達に伝えていきたいですね」とのメッセージも。その笑顔は、日野川の水面のように輝いていました。



手押し漁のようす

川で学ぼう 川とふれあう学習

「聞いてごらん川が何か言ってるよ」

日吉津小学校では、この地域で言う通称“西川”という用水路を題材にした学習が行われています。西川は海川排水路とも言い、日野川から取水し、岸本町から日吉津村まで続いている全長約 12 Kmの排水路です。毎年 4 年生が行う総合的な学習は、実際に現地を訪れて子ども達自身が受けとめて感じたことをテーマに 1 年間を通して学習しているというものです。今年は、“なぜ西川が作られたのか”というような歴史を探索するや“どんな水なんだろう”という水質に関する事、“どんな生き物がいてどんな生活をしているんだろう”という生物調査に関する事の 3 つのテーマを上げ、4 つのグループに分かれてそれぞれが学習しています。



井手ウォーク (7/30)
(後日野川)
日野川の歴史について説明を管理組合の人から受けているところ



井手ウォーク (7/30)
岸本町の取水口に到着



井手ウォーク(7/30)井手に沿って上流へ



あゆの稚魚放流

学校での授業とは別に自由参加ながら、地元の役場や団体が中心となって行われた“井手ウォーク”“西川であそぼ”などの川にちなんだイベントや学集会などにも積極的に参加し川に対する関心を深め、また毎年 4 月には地元を流れる日野川に 3・4 年生の手によって稚アユを放流したり 3 月には鮭の稚魚を放流したりしています。

現在は子ども達が自分自身で感じた事や疑問に思った事の中からテーマを絞り学習を進めているそうです。西川をとおして水に対する思いや自然環境の大切さを学んで欲しいですね。

新シリーズ “学校紹介…川で学ぼう”

今回より、水や川にちなんだ学習や活動を行っている日野川流域の学校をシリーズとして紹介していきます。



日吉津村立 日吉津小学校

日吉津小学校は文字通り日吉津村内に位置し、明治 6 年 5 月に創立され地元のお寺を借用して開校された、古くからの歴史のある小学校です。平成 15 年現在で生徒総数約 180 名自然環境にも恵まれ、それを生かした教育も行われています。



日吉津村

秋の「味」

「日野川源流米」

日本人の主食として親しまれている米は、中国より伝来し古くは縄文時代より栽培されていたとされています。主成分はご存知のとおりでんぷん（炭水化物）ですが、その他にもアミノ酸やたんぱく質、食物繊維、ビタミン、ミネラル、その他の成分が複雑に混じり合っています。米などの農産物はその土地その土地の気候・風土が影響し、生産者（農家）が一生懸命に育てたものです。同じように見える米も、くらべてみれば少しずつ味や形もちがうかもしれません。毎日食べる米はやはりおいしいものを食べたいですね。

おいしい米の取れる地方のひとつとして日南町があります。日南町は鳥取県西部の山間部にあり寒暖の差も大きく、水温、水質、気候にも恵まれ、おいしい米作りには適した地方で、良い条件でなければ生産されない鳥取県内唯一のもち米の生産地指定をうけている地域でもあります。米の作付面積は約800ha（ヘクタール）取引量は約3600t（トン）で、そのうち1等米の比率は約93%、約1250軒の農家により生産されています。数字の上からもその品質の良さがうかがえます。



そこで生産されている有名な銘米である「こしひかり」と「ひとめぼれ」を、約10年前より日野川源流米「露の玉米」として販売されています。近隣の市町村や町内にある施設のホームランド多里、アメダス茶屋、ふるさと日南邑、四季彩でも食することが出来ます。おいしい米とされる日南町産米も、気候や風土ばかりではなく、そこには農家の米作りに対する努力や思いも込められ、昨今は、減農薬・無化学肥料栽培にも取り組みいっそうおいしい米作りがされています。

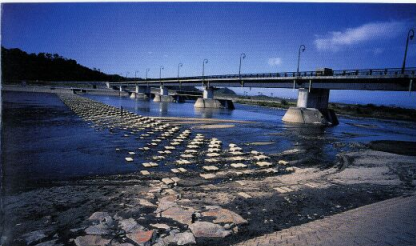
問合せ先
JA鳥取西部 日南町支所 0859-82-1125

山紫水明 夜冷昼暑の與日野町有るまじは
奥日野米は稲作文化とともに山紫の民族歳時
記であります。

出雲神話の舞台である船遊山は鳥取県鳥取
境山間部の真ん中に位置します。
その船遊山を源流とする、日野川は中国地方一
の清流と知られ、この上流である奥日野の米つくり
は山里の暮りそのもので、今は薄れつつある神事と
とりのたごまな行事が今日に継承されています。
正月土日は田打ち正月といひ、明け方松飾と
田圃にうしろ田畑の神を迎えます。そして鏡餅と
神油を供え恵方に向い、団土のなごま野を田と
なして銀の御幣や露の玉米と称えながら豊作
を祈り三穀土を打ります。
又日南神楽祭の舞の第一節す大田王命が
「団土の……」ととなえています。

「露の玉米」の謂れ





第5回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 爾賀 川嶋六三郎さん
日野川河川事務所周辺

水辺のオウチング

—表紙「橋と石」—

流れを調整する幾何学模様の底石と直線の橋の美しさ。

日野川流域 ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・14

さぼう 砂防ダム

大山は標高 1,709m の中国地方随一の巨峰で、その山麓は 10 数 km の長さがあり、北は米子市、赤碕町、西は岸本町、溝口町、江戸町まで達しています。

大山周辺には、地盤がもろいため大雨が降ると崩れやすく、土石流のおそれがあるところが、いくつかあります。特に、大山山頂付近の斜面は、数年ごとに崩れていることから、昔から崩れ落ちてくる土砂との闘いを繰り返しています。

皆さんは、写真(右下)のようなコンクリートでできた壩を見たことはありませんか？これは、砂防ダムといえます。砂防ダムには次のような役割があります。

- ①大雨とともに溪流にそって流れ出る土石(土砂)流が、途中でたまって川をせき止めた事によって起きる河川の氾濫を防ぎます。
- ②集落の背後の溪流より襲いかかる大雨による土石流から、私たちの生命と財産を守ります。

砂防や河川に関する事は、ミニ砂防館でも紹介しています。

土石流は場所によりますが、時速 40 ~ 50 km/h の速度で襲いかかることがあります。砂防ダムには、押し寄せる土石流と同時になぎ倒された木も流れ込んできます。そこで砂防ダムで土石流、木をためることで、土石流がいつきに下流へ流れ出ることを防ぎます。



H15.7 九州土石流災害

三二 砂防館

国土交通省日野川河川事務所

ご利用時間 / 9 : 00 ~ 16 : 00
休 館 日 / 土曜日・日曜日・
祝祭日・年末年始

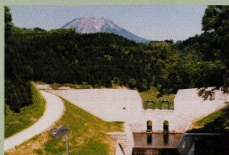
入場無料

団体で来館される場合は、事前に連絡の方をお願いします。

駐車場あり

日野川河川事務所
大山砂防監督官舎内ミニ砂防館 江戸町久連船場 36-1
TEL 0859 (75) 3802 FAX 0859 (75) 2317

大内 2 号砂防ダム
(日野郡溝口町大内)





イベントあない

INFORMATION



●岸本町

「森と清流の里ふれあい祭り」

平成15年11月2日(日)
問い合わせ先……岸本町校場産業観光課
TEL 0859-68-4213

「岸本さないや祭」

平成15年11月25日(土)～26日(日)
問い合わせ先……岸本町校場産業観光課
TEL 0859-68-4213

●西伯町

「緑水湖ふれあい祭」

平成15年11月3日(月)
問い合わせ先……南さいはく自然休暇村「緑水湖」
TEL 0859-66-5111

●会見町

「全国柿の種吹きとばし大会」

平成15年11月23日(祝)
問い合わせ先……会見町役場内、大会事務局
TEL 0859-64-2211

●江府町

「第9回日野川への想いを語る会」

平成15年11月21日(金)14:00～16:00
江府町山村開発センター
問い合わせ先……日野川への想いを語る会事務局
TEL 0859-27-6484

川・ふれあいホール コーナー

菅沢ダムの資料展示室「川・ふれあいホール」の展示内容を紹介します。

平成15年12月1日(月)～31日(水)
「第6回
日野川フォトコンテスト入賞写真展」

一般の方の作品展にもご利用頂けます。
詳しいことは編集事務局までお問い合わせ下さい。

Get heart プレゼントクイズ

問題：○○には何が入るでしょうか？

▽ 12月10日

日吉津小学校の子どもたちが学習の題材にしている川の名前は、日吉津地区では○○と呼ばれています。

プレゼントをご希望の方は、官製ハガキに、クイズの答え、住所・氏名・年令・電話番号、Get heartに関する感想を記入の上、下記までご応募下さい。抽選にて、5名様に粗品をさしあげます。※当選者の発表は、発送を持ってかえさせていただきます。

〒689-3537 米子市古豊千678

国土交通省 日野川河川事務所 ゲットハート クイズ係

編集後記

今年は、気象異常だといわれていますが、もう11月という事もあり、すっかり涼しくなり、川の水も、冷たくなりました。

やはり夏は、夏らしく、終わってみるとそう思うものです。

さて、来年の夏は、どうなるのか。来年の話をすると鬼が笑うといいますが、この地方はまだ、きびしい冬がひかえています。やはり冬は、寒いほうが、良いのでしょうか。

K.A

あなたのこころを

GET HEART

GET HEART 第24号

発行

・日野川への想いを語る会

編集事務局

・国土交通省日野川河川事務所

〒689-3537

米子市古豊千678

TEL (0859) 27-5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>



「川」について、意見、質問、要望、何でも受け、便りください。持ちょうけんね。